

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	73000184
法人名	医療法人 総心会
事業所名	総心会 グループホーム長岡京ム長岡京
所在地	京都府長岡京市開田4丁目20番21号 (電話) 075-959-1515

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月10日

## 【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 15 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	19.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 600,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	700 円	おやつ	240 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 11月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 総心会 長岡京病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざしている長岡京病院を母体を持つこのグループホームは、都会にありながらも自然が残っていると環境の良いところに立地し、建物も周りと馴染んでいます。ホーム内はバリアフリー構造になっており、医師の往診の支援や24時間での対応、療養手帳による医療間の連携、訪問看護ステーションや職員にも看護師が配置されており、健康面でもとても安心出来る体制となっています。また、職員のレベルも高く、研修も充実しており、ケアに十分に活かされています。センター方式の取り入れにより入居者一人ひとりを深く見て、その方の生活に合ったケアプランが立てられており、入居者は庭での家庭菜園や日々の家事など 役割を持ったり、毎日の散歩、月1回のイベントなど楽しみ事を通してゆったりと過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で見いだされた課題については会議で話し合わせ、法人に相談したり、すぐに実行できる事から見直しを行っています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価については、管理者、ユニットリーダーが中心となり、職員の意見をとり取り入れながら作成されています。自己評価はケアの振り返りの良い機会となっています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議ではグループホームの取り組みの説明をはじめ、敬老会の日に会議を実施し入居者との交流を持ったり、認知症やターミナル等の話し合い、成年後見制度についての情報を得たり、事例検討の場にもなっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族が来られた際に意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めています。ホーム玄関へのご意見箱設置や苦情窓口を書類に明確にされており、ホーム内の掲示板でも案内しています。意見等については職員間で共有しながら、話し合い改善しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の運動会の見学や近所の英会話教室に通う子供たちとの交流、散歩時に画廊に立ち寄り、挨拶を通して顔馴染みの関係づくりがされています。ホームで開催する敬老会にも町内会の方を招いており、日頃も花を植えてもらったり、ホームの庭で収穫したさつま芋をお裾分けしたりしています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別にグループホーム独自で、開設時に職員全員で考えた介護理念が掲げられている。	○	今後地域の中で入居者がどのように暮らしていけるかについて職員で話し合い、理念に盛り込まれる事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内で実施される学習会やユニット会議を通じて常に理念を基に話し合いをしている。日々のケアにおいても理念にそって入居者に尊厳を持って接するよう取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会の見学や近所の英会話教室に通う子供たちとの交流、散歩時に画廊に立ち寄ったり、挨拶を通して顔馴染みの関係づくりがされている。ホームで開催する敬老会にも町内会の方を招いており、日頃も花を植えてもらったり、ホームの庭で収穫したさつまいもをお裾分けしたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で見いだされた課題については会議で話し合わせ、法人に相談したり、すぐに実行できる事から見直しをしている。今回の自己評価については、管理者、ユニットリーダーが中心となり、職員の意見と取り入れながら作成している。自己評価はケアの振り返りの良い機会となっている。	○	職員それぞれが日々のケアを振り返る機会にとなり、ケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの取り組みの説明をはじめ、敬老会の日に会議を実施し入居者との交流を持ったり、認知症やターミナル等の話し合い、成年後見制度についての情報を得たり、事例検討の場もなっている。	○	地域とのつながりが出来た事により日々のケアにもつながっておりとても充実した会議となっている。今後も継続的に会議を開催し、さまざまな情報を得たり、活発な意見交換を通して、さらなる質の向上を図る事が期待される。

グループホーム長岡京

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に定期的にホームの報告をしたり、疑問点などの相談をし、サービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際にコミュニケーションを取ったり、行事の際の写真を配布している。電話にて日頃の様子や健康状態について報告をする。また、金銭管理についても毎月出納長のコピーをお渡しし、領収書原本をお返ししている。	○	入居者の様子やホームの行事報告・予定、職員の紹介を載せた「ホーム便り」の発行が今後期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られた際に意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。ホーム玄関へのご意見箱設置や苦情窓口を書類に明確にされており、ホーム内の掲示版でも案内している。意見等については職員間で共有しながら、話し合い改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者との馴染みの関係が継続できる事を大切に考えられている。ロッカールームや休憩が出来る場所を確保しており、福利厚生面でも充実を図り、異動はほとんど無く、離職につながらないようにもしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人で実施される研修への参加や、職員間で学習委員会を作りホーム内でのさまざまな勉強会、ユニット間での職員交換研修を実施し、出来るだけ外部研修にも参加している。また、会議にて伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内にて医師会が実施している在宅療養手帳委員会に参加し、定期的に同業者との交流を図っており、良い機会としている。今後は管理者だけでなく、職員の参加を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前になるべく見学に来て頂き、入居者の方や職員とレクリエーションに参加してもらうなど交流を持ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は理念にも掲げているように人生の先輩として尊敬の念を持って接しており、入居者からは家事の仕方や昔の話を回想法をまじえて聞いたりしながら一緒に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や思いについては日常会話より把握に努めており、困難な場合は表情や態度より把握している。センター方式を一部使用し、得た情報については追加記載しながら職員間でも共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式でアセスメントを実施し、家族の意見はホームに来られた際に聞いており、職員の意見はカンファレンスにて話し合い、入居者が生活していく中でのケアプランが立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回の見直しが行われており、状態の変化がある場合は、見直し前でも再検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況に応じて通院介助をしている。また、介護全般に関する相談も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医が支援され、それぞれの医師が定期的に往診して頂いており、緊急時の対応も可能である。また、在宅療養手帳にて医師間の連携も出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況により早い段階から家族の意向を確認し、ターミナルケアに入る際に同意を得て、主治医、看護師、職員との連携を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーや自尊心を損ねない対応、言葉掛けに配慮しており、職員間での指摘や管理者により指導を行っている。また、個人情報の扱いにも注意を払い、記録等は直接見えないところで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを考えながら、入居者の希望にできるだけ添えるよう、人員に余裕を持たせるため夕方からアルバイトを採用し、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理や料理分け、食事、後片付けを行い、役割や自信回復の場となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であり、一人ひとりの希望に配慮し、タイミングや声掛けを工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、昔の職業、趣味を活かしながら、調理の際の味付けや家庭菜園の方法、水やり、習字など、力を発揮する場面を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に最適なコースもあり、天気の良い日には希望にそって出掛けている。また、買い物にも出掛けたり、お庭で過ごしたりもしている。希望があれば、夕方にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門、玄関、エレベーターに鍵を掛けず自由な暮らしを支援している。職員は鍵を掛ける事を優先せずに、どういう時に外へ出られるかの把握をし、見守りやユニット間の連携に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1度避難訓練を実施している。また、ホーム内にAEDを設置している。	○	地域の方の協力依頼については、今後の取り組みの課題と考えられており、運営推進会議で話し合い、協力を呼びかける事が期待される。

グループホーム長岡京

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事が支援出来るように、法人栄養士と連携が取れており、月1回栄養士が摂食状況の把握にも来ている。毎食食事量を記録し、水分についても意識的にとってもらうよう支援している。また、状態に合わせてキザミ食やミキサー食にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館バリアフリーで広々とした空間になっており、壁面を利用して季節感ある装飾をしたり、隠れたスペースに椅子を配置したり、庭にもベンチを置いて、居心地良く過ごせる空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた馴染みのタンス、椅子・机や仏壇を持ってきてもらい、絨毯を敷いたり、写真や小物を置いて工夫しながらその人らしい居室づくりをしている。		